

修学旅行新聞

大島

1日目 奈良

法隆寺

法隆寺は、飛鳥時代の聖も現在に伝える世界最古の木造建築家として広く知られています。実際に目にして見ると、建物一つひとつとも古く、法隆寺の一四〇〇年に及び伝統を感じることができました。

金堂内部



東大寺 (奈良公園)

東大寺は、奈良時代の中頃に聖武天皇の推願により創建されました。本尊の盧舎那大仏は、毘盧遮那仏(ぶつ)とも呼ばれ、像高は約17mもあります。中指はひびの身長の人とほぼ同じ長さだとされています。

奈良公園では、見渡す限り、どこに顔も向けていても、たくさんのお鹿を見ることができます。おとなしいので、頭をなでることもできます。楽しげです。でも、以外と恐がり、荷物や服を舐められます。鹿せんべいをあげることもできますが、たくさんいるので、あげているうちに鹿に囲まれている人も、よく見ました。

平等院

鳳翔館は、平等院に伝わる様々な宝物類を保存、展示する博物館でした。その中には、雲中供養菩薩が展示されており、いずれも雲に乗り、様々な楽器を奏で舞うなど、伸び伸びと繊細に彫り上げられています。展示されている菩薩像は、二六体に、なるそうです。

2日目 京都

金閣寺

金閣寺は、お釈迦様の舍利(舎利)をまつた舍利殿(金閣)が特に知られ、私達には、金閣寺と呼んではいけません。正しくは、鳳凰寺と言います。金閣は、漆の上から純金の箔が貼ってあり、屋根の上には鳳凰が輝いています。写真で見ると、輝いていて、キレイに見えました。

龍空寺

龍空寺は石庭が有名です。この石庭は、東西25メートル、南北10メートルの空間に白砂を敷き詰め、十五個の石を配したものです。極一端なまでに象徴化されたこの石庭の意味は謎に包まれており、見守る人の自由な解釈に委ねられています。十五個の石は、どこから見ても十五個全部を見ることができず、実は、一ヶ所だけ全ての石を見ることのできる場所があります。

銀閣寺

銀閣寺という名前前は、俗名であり正しくは、東山慈照寺(あざみ)といわれています。銀閣は、落ちついた雰囲気です。特に庭がとてもきれいです。



観音殿 (銀閣) 国史

三十三間堂

三十三間堂には、千体千手観音像(せんたいせんじゆ)があります。その名の通り、千体もの仏像が一丁の狭い中を、整列している様子は、とても迫力があります。千体という数は多く、仏像の列は100メートル以上も花まで続いていました。中尊千手観音坐像は、とても大きく、重々しく、聡明な表情を呈しています。

感想

奈良も、京都も期待してはいたよりも、とても素晴らしかったです。建物一つひとつとても長い歴史を感じることができました。方にも、八つ橋やそばなどの食べ物も食べたり、京都ならではの町並みが見れて、とても楽しい修学旅行でした。機会があればまた行きたいです。



1994年、世界文化遺産に登録される。